

2023年

## 秋の読書感想文・課題作文優秀作品

### 【小学部・読書感想文】

「ナマケモノは、なぜ怠けるのか？」を読んで

鶴川校 N・Aさん（鶴川第二小）

この本は、見た目が弱そうに見えたり、馬鹿にされていたり、きらわれているような動物や植物に注目をし、そんなつまらないように感じる生き物が、実際は印象をがらりと変えるような生き方をして、ありのままに生きているというところを知ることができる話だ。

とくに印象に残ったのはブタの話だ。「ブタ野郎」という言葉は、悪い意味にとらえられているが、実はブタは、筋肉質な生き物でやせた男性の体脂肪率に近い。さらにブタは時速四十キロメートルで走ることができ、人間の百メートルの世界記録をも上回ってしまう。また、ブタはきれいな動物で、えさ場や寝床を汚さないように用を足す場所と分けるほどであり、知能も人間の三歳児レベルであるほど頭が良い生き物だ。

私は、このブタのすごさを知っているので、今では「ブタ野郎」という言葉はもはや悪口ではないと思っている。もしそんな言葉を言われたらブタのすごさを話してしまいたい。

このブタの話のように、目に見えているものが全てではないということを知りたい。

私の学校には授業のじやまをする男子がいる。いつもふざけて、真面目に授業を受けず、何度も先生に怒られ、クラスの人々に迷惑をかけるあの男子も、もしかしたら学校の外では誰かを助けたり、本当は真面目に勉強したりするよな良い子なのかもしれない。そう考えるとあの男子の個性として受け入れることができるようになった。

私はこの本を読んで、目に見えている表面的なことだけではなく、見方を変

『この世界からサイがいなくなってしまう』を読んで

成瀬校 H・Mさん（南大谷小）

この話は、サイがなぜ絶滅しそうなのか、またサイが絶滅しないようにするためにどのように取り組むべきかが書かれたものだ。

私は、作者が野生動物を保護することの大切さ、人と野生動物がどうすれば地球の上でともに幸せにくらしたいけるのかということ、私たちに伝えたかったのだと思う。そんな、作者の野生動物とともに幸せに生きていこうという気持ちに、私は賛成だ。なぜなら、生きているものすべてに幸せになる権利があると考えているからだ。

人間の勝手な思い込みで、サイの角がガンに効くと言ううわさが流れて、密猟者がサイを殺すようになった。人間のせいでサイが絶滅しそうなのはおかしいと思う。密猟者からサイを守るために命を落としたりケガをしたりするレンジャーもいる。殺すのも守るのも、人間なのが不思議だ。無駄なことをしないで、すべての命を大切にすべきだと私は思う。

私には、かわいがっていたデグー\*が死んでしまった経験がある。どうして死んでしまったのかわからなかった。夏の暑い時期だったから熱中症だったのかもしれない。かわいがっているデグーが死んでしまったときは、私はもうちょっといいねいに気をかけてあげればよかったという気持ちになった。まだわが家には、デグーが二匹いる。死んでしまったデグー以上に注意して世話をしたい。

この本を読んで、すべての生き物が幸せになる環境を作ることが大切だということを知ることができた。これから先、生き物が暮らしやすくなるために、自分にもできる小さなことから始めて、生き物と共に幸せに暮らしていけるように成長していきたい。

\*編注 デグー 齧歯類の小型の草食動物。学習能力があり、飼い主ともコミュニケーションを取ろうとすることから、人になつきやすいペットとして人気が出ている。

## 【中学部・課題作文】

鶴川校 S・Cさん（金井中）

私は、福井県で発生した被害の原因は人間であるように思う。なぜなら、海は人間が入るべき場所では無いからだ。私たちは街に猿が出ると捕獲する。海の生物にとつて、人間は猿のような存在なのではないだろうか。だからこのような被害が起こるのだと考える。

資料Ⅰによると、約十八パーセントの人が一番好きな動物にイルカを挙げている。しかし、資料Ⅱからイルカが危険な動物であることがわかる。資料のイノシシやクマ、サメはニュースや映画の影響から危険なイメージを持っている人が多いが、イルカはイルカショーなどで、子供の頃から親しまれているため、野生であっても警戒心を持ちにくいと考えられる。

また、福井県と三重県で対応が分かれたことについて、営業を続けるべきだと思った。資料Ⅱからもわかるようにどんな動物にも危険はある。もしそんな危険性を考慮して海水浴場を閉鎖するならば、同じ危険性がある全国の海水浴場を閉鎖しなければならなくなるが、そうなる可能性はゼロに近い。つまり、海での被害を無くすには利用している私たちが変わる必要があるのだ。特に変える必要があるのは「海に入る際の意識」ではないだろうか。楽しむ気持ちだけでなく警戒心を持つことで被害は減っていくと考える。

私が「正解が一つではない」と感じたのは、昨年の合唱コンクールの練習方法を決める時だ。他のクラスは参加者が少なくなることを懸念し強制参加日を作っていたが、私は放課後なのに帰れないのはおかしいと思っていたので、私のクラスでは放課後練習を自由参加にした。結果的に私たちのクラスが金賞を獲得することができて、強制参加にする必要はなかったのだと気づいた。この経験から、本質は何かを考えることや対立する立場の人の視点から問題を見ることの大切さに気づくことができた。これからは、少数意見も尊重してより良い方法で問題を解決していきたい。

イルカによる人的被害があることを知り、まずは驚いた。イルカはそれほど凶暴な性格ではなく、むしろ人懐っこくて可愛いというイメージを想像していたからだ。

資料Ⅰを見ると約十八パーセントの人が「一番好きな生き物はイルカである」と答えていることが読み取れる。私も一番好きな生き物はイルカであった。しかし資料Ⅱを見るとその考えは大きく変わった。死者を出しているイノシシや二ホンツキノワグマなどと比べ、イルカも同じような、もしくはそれらを上回る体格、威力があることが分かる。筆者と同様に「イルカはかわいい」だけで済まされないことを実感した。

福井の海水浴場と三重の海水浴場とで異なる対応が採られたことについては、いずれも間違っていない対応だったと思った。経済を選ぶか、自然を選ぶか、どちらにも価値があり、どちらも重要なことである。もし私が当事者であったら、様々な人の意見を集め、その上で何を優先すべきなのか考えたはずだ。二つの海水浴場でもこれらの過程を経て、答えを出したのだろう。

私にも対応の選択肢が複数あったと思える事例がある。それは、サッカーでパスを出した時、私が出した方向で良いパスが繋がっても、周りからは逆の方向のアドバイスをされたということだ。そしてその考えもあるなど共感することが多く、そこから、正解は一つでも無いな、様々な意見を取り入れることは大切だなということに気づいた。

私は人の数だけ正解があると考えている。見方、考え方、感じ方、これらは人それぞれだからだ。だが、今回の事例のように、その考えを一つにまとめ、対応していかねばいけないことがある。その時には、自分が思う意見を周りに広める、そして周りからの多種多様な意見を取り入れる、その上で何が最善なのかを判断していくべきだと私は考える。

中山校 S・Nさん（中山中）